

火を吐くうざぎ！がお～
京の復興のため今日もがんばるぞ！

代々検非違使として仕えていた英道家だが、兎角が幼いころに父の反逆により実力のあった兄たちも処罰で命を落としてしまった。一家が処罰されたときはまだ幼く、父が何を理由に朝敵となったかも知らない。一族郎党の死が必然なはずなのに、何故自分だけが助かったのかも知らない。家は没落まっしぐらで自分に構ってもらふ余裕も無く、むしろ忌避された為、まともな教育を受けられなかった。そのため今でも知能はちょっと残念。母の願いでもある一家復興のために自身も検非違使として戦うことを選び、力を身に着けた。英道家の血を継ぐ者が自身しか残っていない為、早急に腕のいい殿方を婿に募集中！

本人は良くも悪くも単純。
よく言えば無邪気な子供かな～というところ。思ったことは大体全部口に出す。顔にも出る。褒められるとはちゃめちゃに喜びます。頭とかわしゃわしゃに撫でられるともうニコニコ。幼少期に親から愛を受けられなかったので、無自覚にその代替を求めているのかもしれない。

頼光
女ながら武士として振る舞う自分に、子供の頃は特に周りからの反発も強かったが、頼光は文句なく受け入れてくれて嬉しかった。彼が自分の働きに期待してくれるのであれば、いくらでも応えたいと思っている。懐きまくり。自分の命は二の次です。彼に仕えるのが生涯の喜び。たくさん褒めてほしい。頼光様のために強くなったので。半妖京事変後も彼に仕え続けている。最近は頼光本人もこのびのびと出来ているようで良かったなと思っている

菟道 兎角(とどう とかく)

[illegible][illegible]